

# 1. 評価結果概要表

作成日 2008年3月27日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1271100792
法人名	株式会社新くらし工房
事業所名	グループホームおりびおヴィレッジ
所在地	〒292-0827 千葉県木更津市港南台1-31-5 (電話) 0438-30-0231

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成20年3月27日	評価確定日	5月13日

【情報提供票より】(20年3月12日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人		
職員数	22 人	常勤	11人	非常勤	11人

### (2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000円	その他	食費36,000,水道光熱費12,000,居室にて使用の電気代,初期加算900円,預かり金管理費2,000,オムツ代,理美容代,医療費など	
敷金	無		有りの場合	有(退居時の居室の修繕や未払いがあった場合は清算し返金)
保証金の有無(入居一時金含む)	有(250,000円)	償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

### (4) 利用者の概要(3月12日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	3名	要介護2	4名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.1歳	最低	73歳	最高	96歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	平野内科医院・水野歯科医院
---------	---------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの外観は、スペイン風の洋館を思わせ、雅やかで気品を感じさせる。手入れの行き届いた庭園は、市街からの喧噪を離れて、河津桜や椿の花が咲き、安らぎを与える。ホーム内は、調和のとれたブラウン系のインテリアでコーディネートされ、入居者を暖かく包み込んでいる。ホーム運営は、顧問アドバイザーと管理者が中心となり、きめ細やかなサービスが提供されている。とくに入居者の家族との連携が効果的にとられ、2回/年のカンファレンスへの参加率は100%であり、家族とともに入居者を支援する仕組みが整っている。また、家族へ毎月送付されるお便りには入居者の状況がつぶさに報告されている。利用者本位の質の高いケアが実践されている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で上げられた改善課題は、介護の基本の実行2項目、医療・健康支援1項目、内部運営体制1項目、ホームと地域との交流3項目の計7項目であった。各改善課題へのその後の取り組みは継続して行われている。特に地域との交流については、改善の効果が顕著に表れている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全ての職員が自己評価及び外部評価に取り組む意義を理解し、評価の一連のプロセスを通じ一つでも多くのことを学び取るという建設的な姿勢が伺える。自己評価は、評価項目の確認をミーティングで行った上で、全ての職員で分担し、記入されていた。さらにその上で気づきのためのミーティングが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は過去、定期的に1回/3ヶ月開催され、市町村職員、区長、入居者、家族代表等の多数の参加が得られている。主な議題は、外部評価の結果、日々の活動状況、市の保健財政等、地域包括支援センターから、質疑応答等である。また、開催前には参加者に会議の資料を送付する等の工夫がされている。参加者から「地域との共同防災訓練の実施」等の提案があり、効果的な取り組みが行われている。市町村との有効な連携においても運営推進会議が大きく寄与している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	全入居者の家族に対し、詳細な情報提供が定期的及び個々にあわせ1~2回/月、行われている。離れて暮らす家族に安心していただけるよう毎日のバイタル、食事、入浴、排泄、日中と夜間の状況等の記録、また金銭出納帳の写しや献立表を送付することにより、家族との有効な関係性が築かれ、家族のカンファレンスへの参加率は100%である。家族の意見、苦情、不安はその都度、職員で協議し運営に反映されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ユニット毎に自治会へ加入し、地域との積極的な交流が図られている。外出が可能な入居者は、地域のグリーンデイ、祭礼や敬老会等へ職員とともに参加している。また、定期発行のおりびお通信を回覧板や約80世帯にポスティングを行い地域住民に対して、活動内容や行事開催等のお知らせをすることによりホームへの理解が深まっている。入居者の単独外出の際にホームまで送り届けていただけることもある等、有効な関係性が築けている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で入居者がその人らしく暮らし続けることを支えていくため、「ひとりひとりの生きている証をともに刻むこと」を理念とし、スタッフ自身の家族が安心して入居することのできるホーム作りに取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームのエントランスには、ホームの理念が明文化され、訪れる全ての者の目にとまるよう位置にそっとモダンな額に収まっている。管理者は、申し送りや日々のケアの中で繰り返し、意識付けを行っている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ユニット毎に自治会へ加入し、地域との積極的な交流が図られている。外出が可能な入居者は、地域のグリーンデイ、祭礼や敬老会等へ職員とともに参加している。また、定期発行のおりびお通信を回覧板に挟み地域住民へ配布することによりホームへの理解が深まっていっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全ての職員が自己評価及び外部評価に取り組む意義を理解し、評価の一連のプロセスを通じ一つでも多くのことを学び取るという建設的な姿勢が伺えた。しかし、前回改善事項に関して、どのように改善し、いまだどのような状況にあるのかが、不明確な点が散見された。		さらに評価の効果を享受するため改善事項については、「改善計画シート」を用いて、改善の経過とその結果及び効果を全ての職員間で共有し、日々のケアに活かしていくことが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去、定期的に1回 / 3ヶ月開催され、市町村職員、区長、入居者、家族代表等の多数の参加が得られている。また、開催前には参加者に会議の資料を送付する等の工夫がされている。参加者から「地域との共同防災訓練の実施」等の提案があり、効果的な取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村とは、介護相談員の受入や運営推進会議等を通じ、有効な関係性が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	全入居者の家族に対し、詳細な情報提供が定期的及び個々にあわせ1～2回/月、行われている。個人記録は、離れて暮らす家族に安心していただけるよう毎日のバイタル、食事、入浴、排泄、日中と夜間の状況等、また金銭管理の状況や献立表を送付することにより、家族との有効な関係性が築かれている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族のカンファレンスへの参加率は100%であり、毎月の詳細な情報提供が確実に行われていることにより、家族とホームの有効的なコミュニケーションが図られ、忌憚のない意見交換が実現している。得られた意見はその都度、運営に反映している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は最小限で抑えるように努力している。もしそのようなことがある場合は、時間をかけて説明しダメージが無いように馴染みの職員が対応するなど配慮している。また、職員に対するメンタルヘルスケアにも積極的に取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や各種団体等の外部研修の機会を設けたり、顧問アドバイザーによる勉強会が全職員を対象に実施されている。また「生活を豊かにする」ための研修参加も推奨している。しかしながら職員のスキルに応じた研修計画を立てるには至っていない。		職員の段階に応じた一人ひとりの教育訓練計画を立案することで、効果的な人材育成の第一歩を踏み出すことができる。さらに教育訓練の進捗状況の管理や各研修の有効性を検証し、教育訓練計画そのものを見直していくことにより、効果的な人材育成の仕組みとなる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当市におけるグループホーム連絡会は発足していないが、研修会等で同業者と交流する機会はある。また、近隣市町村で開催される認知症家族会の勉強会には不定期で参加し、ケアの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時には、家族や入居者の思いを面談で確認しながら、ホームの雰囲気を感してもらえているようにしている。個々の状況に応じて、入居者が安心してサービスが利用できるような関係づくりを重要視している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で一人ひとりの生きている証をともに刻みながら、入居者から思いやりの精神、地域の慣わしや調理技術等を学ぶことの方が多くを職員は実感している。年月を重ねることで支えあう関係が築かれてきている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話や表情、家族の情報などから意向を把握するようにしているが、意思表示が困難な入居者の場合、どこまで思いが汲み取れているのか、はっきりとしない部分もある。		入居者とその人らしく暮らし続けるためには、思いや意向の把握が不可欠である。把握が困難な場合でも、関係者一同で入居者の視点に立って意見を出し合い、話し合っていくことが期待される。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	年2回の家族が加わったカンファレンスでは、全家族の参加があり活発な意見交換がされている。月2回の職員カンファレンスでも介護計画に対する意見やアイデアが出され、それを元に家族の理解を得た介護計画が作成されている。		センター方式の一部導入を検討中なので、誰でも書ける書式・内容とし、わかり易い介護計画が職員や家族の参加を得て作成されるよう希望する。
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者に大きな変化が認められなくても、入居後3ヶ月と6ヶ月で見直しをしている。毎月のミニカンファレンスでは、計画の継続か変更が職員や関係者と検討し、記録に残している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者がホームに馴染むまで、自宅とホームを行ったりきたりする期間を設け、外泊に柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ医にかかるのも、ホームの提携医にかかるのも、入居者の自由となっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでターミナルケアは行っていない。契約時および重度化した段階で、ホームでできること、出来ないことを家族に説明し、病院や特養の紹介をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉や対応は尊敬の念を持ってあたり、居室への入室はプライベートな場所への入室と考えている。記録の表現や保管に当たっては、イニシャルを使ったり持ち出し禁止を厳重に守っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、入浴、就寝、起床などホームの都合を優先するのではなく、入居者の気分や体調にあわせており、一日を気ままに過ごせるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食に対しては力を入れている。オープンキッチンからは調理の音、匂い、楽しい会話が聞こえてくる。入居者が味付けや野菜の刻み方、下ごしらえや後片付けを手伝い、見た目にきれいがかつ、おいしい食事を提供している。男性職員はホームの費用で料理教室に通っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は右マヒ用と左マヒ用が併設で作られ、夜間以外いつでも使用できるよう沸かしている。利用の曜日や時間の制限はない。一人で入りたい方二人を希望する方、タイミングを見ながら声掛けや誘導で楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、花の水遣り、庭の草取りなど、入居者はそれぞれ出来ることを手伝っている。楽しみごとは、散歩や買い物、音楽やゲームなどで、入居者の体調を見ながら、喜びのある一日になるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームは広い庭を持っているので、庭の散策や野菜の収穫、ベンチやベランダでの日光浴やお茶を楽しむことができる。入居者3人ずつで散歩したり、4人以上でドライブに出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯のため、玄関・勝手口・非常口を施錠している。入居者が鍵を開けて外にでたときは、職員も付き添うようにしている。		不審者対策のため施錠しているとのことだが、入居者の自由な行動の妨げとならないように配慮をする必要もあると思われる。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署立会いで職員・入居者参加の総合防災訓練を行い、メールを利用した緊急連絡網の整備や食糧の備蓄も出来ている。しかし、地震対応の訓練はしたことがない。		運営推進会議で近隣合同の訓練が提案されたことを受けて、具体化に向けた企画が進行中なので実現が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者の好みや食事量を把握しており、個々に合わせて食事を提供している。食事量が落ちた場合は、医師と相談しながら高カロリー食やドリンクゼリーなどを併用し、栄養や熱量を確保している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装は落ち着いたあるカラーコーディネートで、清潔かつ季節感にあふれた装飾が施されている。ユニット入り口に行事の写真を飾り、照明やBGMのボリュームもほどよく調整されている。リビングにいと、調理の音、匂いや楽しい会話が聞こえてくる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で入居者が愛用していた品を持ち込み、安心して寛げる暮らしができるよう工夫されている。職員が模様替えや家具の入替えを家族に提案することもある。		